

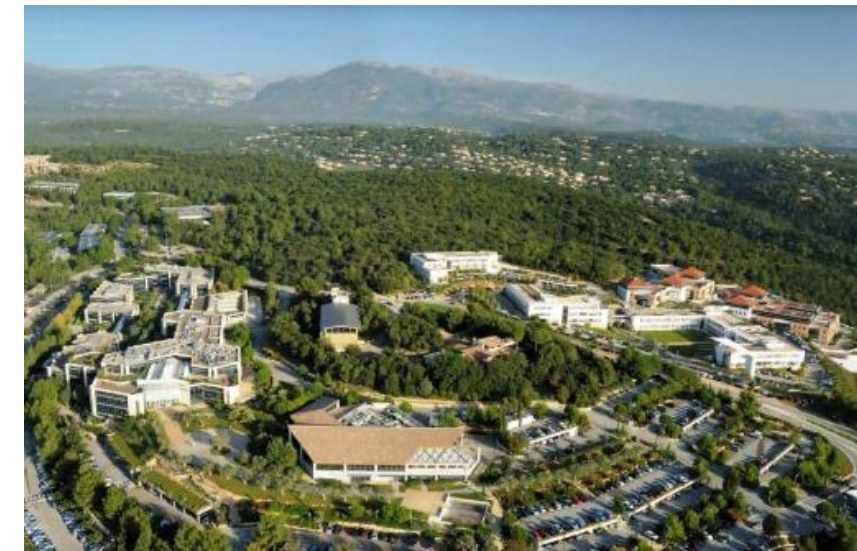
森のまちづくり構想について

東京都市大学環境学部 特別教授 涌井 史郎

<主な視点>

- これからのモノづくりは、大きくて重い工業製品から、軽いもの、飛行機での運搬が可能であるハイテクな工業製品へのシフトを想定。
- モノづくりの中心は自動車産業が盛んな三河地方から、今後は航空産業が盛んな尾張地方や美濃地方に産業の軸足が移る。その流れを見据え、岐阜県は、クリエイティブ産業の創出や誘致の推進が必要。
- クリエイティブ産業の創出には、最先端のリニア中央新幹線と中山道などの伝統的な古い街並みが、概念的にクロスするエリアが必要。
- リニア開業に伴う駅及び駅周辺の魅力のみでは、クリエイティブなまちづくりの推進は不可能。アカデミックな中核施設との連携も必要であり、例えば、中部大学の恵那キャンパスの活用について、検討の余地あり。
- 自然や文化資源などを活かしたまちづくりの推進にあたって、過剰な投資を防ぐための土地の用途規制が必要。地域としてのまちづくりの目標を定め、計画的な投資を呼び込む仕掛けが必要。
- ソフィア・アンティポリスは、豊かな森林に恵まれた広大な敷地に、IT、生命科学、環境科学などのクリエイティブ産業や教育機関等が集積。
- ここでは、研究機関をはじめとしたクリエイティブな人材が集まることにより、産業クラスターが発生し、その後、行政等がインフラを整備。今や、多くのクリエイティブな人材の集積により、世界有数のイノベーション創出拠点。
- 中津川周辺は、良質な森林や川をはじめとした豊かな自然、中山道などの伝統文化に恵まれており、大同特殊鋼（株）などの研究開発部門が進出。中津川周辺は、ソフィア・アンティポリスのような、イノベーション創出拠点に変貌する可能性。
- 中津川周辺がイノベーション創出拠点となるには、豊かな自然に囲まれたストレスフリーな環境の整備による研究機関等の企業誘致、従事者の移住定住の促進及びアカデミックな中核施設との産学官連携が必要。

<ソフィア・アンティポリスの概要>



ソフィア・アンティポリスは、フランスの上院議員ピエール・ラフィッテにより設計され、ヴァルボンヌ市内の広大な高原にテクノロジーパークを建設。全体面積は2,300ヘクタール（9割が緑地）

1969年：ソフィア・アンティポリス財団設立

1974年：最初の企業進出

2019年：2,500社、38,000人の従業員、業績は56億ユーロ

現在、ソフィア・アンティポリスが、革新的な能力を維持・統合しつつ、ビジネス競争力と魅力を維持できるよう、2040年に向けた「ソフィア2040」プロジェクトが進行中

- 中心部の広場・建築物の再生などテクノポリスの改良
- バストラム・自動運転シャトルなどモビリティの充実
- バイオテクノロジー・AI・スポーツ研究のための最先端のインフラ整備
- 建築、環境に関する品質の確保



中部大学恵那キャンパス

恵那市武並町竹折字西川原田985-1

敷地面積 344,594m²

